

令和8年度 港区立三光幼稚園 経営計画

園長 藤井 未知江

1 経営理念

子どもにとって社会生活の第一歩である幼稚園は、学校教育の第一段階です。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、自我の芽生えや身の自立、言葉の獲得など、人間の一生の中で最も心身の成長・発達が著しい時期です。

予測不可能な現代の中で、子どもたちが将来にわたり幸せな人生を送るために、自ら考え多様な人と協働しながら、一人ひとりが持続可能な共生社会のつくり手となることが求められています。

港区教育大綱（素案）に掲げられている「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」を念頭に置き、学校教育の第一段階として、自ら課題を見付け、考え、行動し、心豊かに、たくましく健やかに生き抜く子どもを育てます。

2 教育目標

じょうぶで元気な子 豊かな心をもつ子 自ら考えて行動する子

3 めざす子ども像

じょうぶで元気な子

- ・体を動かすことを楽しみ、基本的な生活習慣を身に付け、健康で元気な子に

豊かな心をもつ子

- ・自分も人も大切にし、様々なものや人、事象に興味や関心をもち、自ら関わろうとする子に

自ら考えて行動する子

- ・探究心をもち試したり工夫したりしながら、自ら考え、行動しようとする子に

4 めざす幼稚園像

幼稚園に関わる全ての方が、**楽しみながらともに子どもの育ちを支える幼稚園**

三光幼稚園の
子どもたちのために

子どもも保護者も楽しい幼稚園

- 子どもが遊びや生活をとおして学びを深め、心豊かに育つ幼稚園
- 子ども・保護者の心のよりどころとなる幼稚園
- 家庭・地域から信頼され、愛される幼稚園

教職員が楽しい

- 子ども一人ひとりのよさを引き出し、伸ばす
- 指導力を向上させながら、チーム三光で子どもを育てる
- 子どもたちと一緒に学ぶことを楽しむ

保護者が楽しい

- 子どもの成長が楽しみ
- 子育てをする仲間ができた
- 子どもたちのために仲間とともに力を発揮したい

地域や外部の方が楽しい

- 地域の子どもの成長が楽しみ
- 子どもたちのために力を発揮したい

子どもたちが楽しい！幼稚園が大好き！！と思える幼稚園

- ★自分のことが自分でできた
- ★自分の思いや考え、めあてが実現できた
- ★友達と力を出し合ってやり遂げた

5 めざす教師像

- 子どもの興味や関心、意欲を高め、子どもの学びを豊かにする教師
- 子どもの心に寄り添い、保護者と連携して教育活動を行う教師
- 地域とのつながりを大切に、連携しながら教育活動を行う教師
- 園組織の一員として、教育公務員としての使命感にあふれる教師

6 今年度の取組目標と方策

◎ 国際理解教育の推進

・国際理解の芽生えを育むための様々な国の文化や自国の文化に親しむ活動

様々な国があることを知り、その国の文化に興味をもち親しみをもつことができるような教育活動を実施します。(様々な国の遊び、挨拶や言葉の紹介、外国の絵本のその国の言語での読み聞かせなど)

・ネイティブ・ティーチャーの連携と活用

週3回派遣されるネイティブ・ティーチャーと教員が連携を強化し、日常生活や遊びの中で英語を聞く、使う、話すことに親しむことができますようにします。

・地域人材などの活用

「英語で遊ぼう」の会を開催し、英語圏の文化や言葉に触れるとともに、地域人材や保護者と連携し、他国の文化に触れる経験を積み重ね、興味や関心を持たせるようにします。(誕生会のお楽しみなど)

・日本文化に親しむ活動

国際人都市の基礎は、まず、自国の文化を知ることからです。四季折々の日本の文化を行事などに取り入れ、その意味を知り、遊びや生活に取り入れ楽しむことができますようにします。(お茶会、礼法教室、端午の節句、七夕、桃の節句、米作りなど)

◎ ICTを活用した教育の充実

・子どもたちの学びの幅をひろげる電子黒板、タブレット、電子顕微鏡などを活用した遊びや活動の充実

子どもたちが様々な事物に興味をもち、興味や関心をもつためのツールの一つとして、タブレットや電子黒板、電子顕微鏡などのICT機器を活用した遊びや活動をさらに推進し、充実を図ります。(動画を使った振り返りの時間や自然物などの電子顕微鏡での観察と電子黒板での共有など)

・教員の研修の実施

電子黒板や電子顕微鏡などを子どもたちの遊びや学びでの効果的な使用方法について、可能性を探り教員同士で学び合う機会を創出し、教育活動に取り入れます。

◎ 園内研究の推進と指導の改善

・子どもたちの学びを保障する環境構成、教材研究、指導方法の工夫や改善

子どもの実態や発達にふさわしい経験ができるよう、SDGsを念頭におき、意図的・計画的に園舎内外の環境の構成、指導方法の工夫や改善を図り、**幼児の思考力を育むための園内研究を推進**します。また、3学年の子ども同士の関わりをもつ機会を計画的に増やし、なかよしデーの実施、遊びの中での異年齢交流を推進し社会性、協同性を育みます。

・自然環境の充実とそれらを生かした指導の工夫

園内の自然環境の充実を図ることで、自然や環境へ興味や関心をもたせ、知的好奇心を高め、身近な事象の中で自分たちの生活との関わりについて考えさせながら、子どもの思考力、表現力や探究心を育みます。(栽培活動、食育、ビオトープの充実など)

・地域人材の活用と体力向上

子どもが多様な人と関わり、様々な体験をしながら体力を向上できるように、地域人材を活用し、遊びや行事などに講師として招きます。「バランスボール体操」「タグラグビー」「ダンス教室」「投げ方教室」などを実施するとともに、ボルダリングウォールを活用し体力向上に努めます。

・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーの充実

東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーが子どもたちに引き継がれ、その精神を育み、ボランティアマインドの醸成につなげます。

・青少年赤十字活動の実施

毎月15日前後に青少年赤十字活動を実施し、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の精神を育みます。

○ 誰もが安全・安心に園生活を楽しむために

・基本的な生活習慣の確立

健康な生活を送る上で重要であり、小学校以降の学習の基盤となる基本的な生活習慣の確立を、家庭と連携しながらめざします。「早寝、早起き、朝ご飯」「自分のことは自分で」を基本スタンスとし、成長や発達に合わせ、排せつや手洗いの徹底など身辺自立を促します。

・子ども、教職員の動線を意識した環境整備

子どもや保護者にとって、幼稚園が安全で安心な場所となるよう、毎月、安全指導や避難訓練を実施し、子どもに危険に対するの構えを身に付けさせます。また、月に一度、職員が園内の安全点検を実施し、子どもや教職員の動線を意識し、安全で安心な教育環境の整備を行います。

・安心して園生活を楽しむために

幼児の姿を見守り情報を共有する職員のチーム体制を整え、区のガイドラインに基づき、いじめの芽につながるような幼児の言動を見逃さず指導します。また、幼児同志が関わりを深め友達のよさに気づき、違いを認め合い、自分も人も大切にできるよう指導します。

○ 保護者・地域の未就園児親子などへの子育ての支援の強化

・バースデートーク（茶話会）などによる面談機会の確保

毎月実施する誕生会（年中組・年長組）の後に、誕生児保護者と担任の教員以外の職員が懇談の機会をもつことで、保護者と幼稚園との相互理解を図る機会とし、園と家庭との連携を促進し、教育活動に役立てます。

・未就園児の会の充実や入園相談会の実施

未就園児の会「ひよこクラブ」において、地域の未就園児親子の居場所作りをするとともに幼稚園ツアーや幼稚園説明会、入園相談会を実施し、園の教育内容の理解の促進につなげます。

○ 保護者・地域への教育活動の理解の促進

・保育参加の推進

年中組・年長組保護者の保育参加を実施し、園での園生活や教育活動への理解の促進を図ります。

・教育内容等の発信の改善と保育参加の推進

園の教育内容を理解していただけるよう、ドキュメンテーションは週に1回配信、学級通信、ホームページ、Xや園内外の掲示物（ポスターなど）発信方法の改善を行います。

○ 幼・小中一貫教育の推進

・白金の丘学園との連携強化

白金の丘学園とともに、白金の丘アカデミーとして12年間の成長を見通した教育を推進します。小学校への円滑な接続をめざし、憧れの気持ちをもたせるとともに運動会への参加や小学校体験、中学生の職場体験などを実施し、円滑な小学校教育への接続を図ります。特に低学年の教員と連携を推進し、5歳児から小学校1年生の間の「架け橋期の教育」の充実をめざし、互いの教育内容や指導法の理解を図り様々な交流活動を行います。

・御田小学校との連携

旧三光小学校校舎である御田小学校の体育館を借り体力向上につなげる、図書館を利用させてもらうなど、連携をしながら教育活動を実施します。

○ 学校運営協議会・地域学校協働本部との連携教科と教育活動の充実

子どもたちの学びの充実のために、園運営に関わる様々な問題を協議し、地域の皆様と連携しながら、地域に愛され大切にされる幼稚園をめざします。

7 中期的目標と方策（令和8年度～10年度）

○ 地域・保護者から愛され信頼される幼稚園づくり

保護者同士の関わり合いを大切にし、保護者や未就園児保護者が、教職員に悩みなどを気軽に相談できるよう、話しやすい雰囲気作りに努めます。定期面談や未就園児の会などを中心に、保護者、地域の方との信頼関係を基盤にしながら一緒に子育てをし、子どもの成長を喜び合えるようにします。

アットホームな伝統を大切にし、学校運営協議会を中心に地域コーディネーターと連携し教育活動を行うとともに、地域に根差し、愛される幼稚園をつくっていきます。

○ 3年間の成長・発達を見通した、質の高い教育活動の推進

教育目標の達成に向け、園生活全体をとおして総合的に教育活動を推進します。幼児の遊びをとおした学びの充実を図るため、教員同士の保育後の話し合いや園内研究会、各種研修会への参加を促し、教員が研鑽に励み、教育内容の改善を図りながら園全体で子どもたちを育てていきます。

○ 白金の丘学園との連携強化と12年間の発達の見通しをもった教育

幼・小中12年間の発達を理解し、互惠性のある連携や交流活動を推進します。アカデミー内で幼稚園の教員と白金の丘学園の教員との合同の研究会や協議会の機会などをとおして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の教員と共有し、幼稚園教育で培われた主体的な学びが、円滑に小学校教育へと引き継がれるようにします。

○ 架け橋期の教育における地域の幼児教育施設などとの交流活動や連携の推進

近隣の幼児教育施設などとの交流を計画的に実施し、同じ地域で育つ子どもとして顔見知りとなり、互いに刺激し合いながら成長できるようにします。保幼小連絡コーディネーターが中心となり、交流や連携のための日程調整や教材研究の情報交換、行事に招待や参加を促したりすることで、架け橋期の教育への理解を深め、小学校への円滑な接続を図ります。（保幼小合同研修会、小学校との交流など）

○ 互いに高め合い研鑽を続ける教員集団の育成

子ども理解や遊びの読み取り方、保育技術の向上、園務分掌上の仕事の進め方などを日々学

び、自信をもち丁寧に職務を遂行できるようにします。そのため、教員同士が環境づくりや教育内容について連携を深めながら、教育活動を進めます。主任教諭を中心に園内研究会などをおして、令和9年度に行う研究発表会をめざし、教員の指導力の向上に向け教員同士の学びを深め、資質向上に努めます

8 教員の働き方改革と方策

教員のウェルビーイングと働き方改革をさらに推進します。

○ 年休取得の促進

- ・仕事の効率化や元気で健康に職務にあたることができるよう、学期に1日程度、年休の取得をめざします。また、長期休業中は、休暇取得の増進はもとより、リモートワーク率を前年度比平均1日増をめざします。

○ 定時退勤の推進

- ・定時退勤（午後5時）を目標とし、遅くとも午後7時には退勤します。
- ・長期休業中は3週間程度の閉園期間を設定し、それ以外の勤務日は定時退勤とします。

○ 子ども・教員の動線を意識した環境整備

- ・「安全・安心」を合言葉に子どもや教員の動線の安全を意識し、園内の環境整備を推進します。